

2 期目の抱負と新執行部のご紹介

会長 田名 毅



令和8年6月25日（木）に開催された第233回定例代議員会の終結時より、2期目の任期がスタートしました。新体制では、「県民の健康と地域医療を守る」という使命のもと、これまでの取り組みをさらに発展させるとともに、行政や経済界など多様な関係機関との連携を一層強化し、新たな課題にも積極的に挑戦していきます。

2 期目への抱負

この2年間取り組んだ事業、かつ新規で検討している事業を紹介し、今期にかける思いを以下に列挙します。

- ①健康長寿の復活に向けたヘルスリテラシー向上の取組として、お笑い集団FECオフィスとの共同事業の開始に加えて、沖縄ファミリーマートとの連携によるおにぎりの販売を実現した。それぞれの事業は第2弾、第3弾の展開についても前向きに進めていく話が出ており、今後も継続的に取組を発展させていきたい。また、現在、琉球銀行、大同火災、サンエー、また電通沖縄と協力し、県民への血圧測定の普及啓発をどのように進めていくかについて、具体的に話し合いを開始している。今後多くの企業の協力を得られるように取り組みたい。さらに、オリオンビールとも連携し、もろみ酢の健康効果、とりわけ血圧への効果について検証を進め、お互いにとって、また県民にとっても成果が生まれるように取り組んでいく。
- ②新たな地域医療構想は、最も重要な課題の一つである。病院間の連携に加え、診療所との連携、介護との連携等、地域全体で取り組むべき課題であり、その実現に向けて積極的に

取り組んでいく。新しく理事に加わった比嘉国基先生には涌波淳子先生や仲村尚司先生とともに地域医療に関わってもらいたい。

- ③オンライン診療については、ソフトバンク社と提携し開始している時間外小児救急患者への対応は日本医師会、他の都道府県からも注目されている。実際に、多くのお母さん方から「素晴らしい事業を始めてくれた」との声も寄せられている。今後も、日中診療を担う小児科の先生方の患者数に影響が出ないように十分配慮しながら、小児救急オンライン診療の充実を図っていく。
- ④津梁ネットワークの活性化については、昨年1年間、会長諮問として方向性を検討してきた。その結果、一次利用と二次利用それぞれの方向性について一定の整理を行うことができた。今後は、ビッグデータも活用できる、おきなわ津梁ネットワークにしていきたい。
- ⑤両副会長が精神科医であることから、この機を逃すまいとメンタルヘルスに関する委員会を設置した。「心療内科の初診は3カ月待ち」などという現状を少しでも改善できるよう、具体的な取組を進めていく。
- ⑥今期の執行部では、産婦人科医会の橋口幹夫先生を参与としてお迎えした。現在、産科クリニックの閉院が相次ぎ、分娩体制の維持が大きな課題となっている。沖縄県として全国に先駆け、バースセンターの整備を進めていくことを検討したい。また、HPVワクチン接種率の向上は重要な課題であり、新しく理事に加わった琉球大学産婦人科の金城淑乃先生に中心として取り組んでもらいたい。地区医師会その他有志の先生方の取組とも連携しながら積極的に推進していく。

- ⑦外国人医療対策については、稲田隆司副会長にご尽力いただき、この2年間で大きな成果を上げることができた。特に、訪日外国人の健診ニーズに対応するため、受入れを希望する医療機関と観光業界との調整・橋渡しを進めるなど、受入体制の整備に向けた環境づくりに取り組んできた。こうした取組は、観光関連産業の活性化に寄与するだけでなく、受入れを希望する医療機関の安定した経営にも資するものと考えている。
- ⑧医業承継・新規開業を検討する先生方のために、3つの金融機関と連携し、地域医療を担うA1会員が減少しないように取り組んでいく。また、会員福祉サービスの強化として医師会会員専用リウボウカードの開始、また沖縄トヨタと連携して人気車種であるレクサス購入の際のサービス提供をはじめている。
- ⑨将来にわたり地域医療を支えるためには、医師会組織の基盤強化も重要である。まず入口

対策として、医学生段階から医師会との接点を創出するため、医学生への白衣贈呈事業を実施し、職能団体としての医師会の可視化と帰属意識の醸成を図っている。加えて、医学生会員制度の創設に向けた検討を進め、将来的な加入基盤の早期形成を目指していきたい。

以上述べてきたように、これらの取組を通じて、医療界だけでなく経済界とも力を合わせ、県民に医師会をより身近に感じてもらい、その上で県民のヘルスリテラシーの向上につながるような取り組みを、一つひとつ着実に形にしていきたい。

これからの2年間、会員の皆様とともに力を合わせ、沖縄県の医療のさらなる発展に向けて取り組んでいく所存ですので、何卒宜しくお願い致します。

役員一言あいさつ

副会長 稲田 隆司

今期は前期で提案した企画がいくつか具体化されます。1つは、医療インバウンドについて、国民皆保険制度の堅持と地域医療の存続を条件として設計・許容されるという日本医師会の一貫した方針が示されています。本県においても、行政、医療機関、経済界、観光業界、そして地域住民が協働し、合理的で実効性のある仕組みを構築する流れになります。2つ目は、メンタルヘルス委員会で地域のニーズを把握したレポートに基づき、各課題のワーキングチームを立ち上げます。3つ目は、沖縄の諸問題に対して医師会の立場から議論し見識を高め必要時には県民に呼びかけていきます。今期も田名会長を支えてまいりますのでよろしくお願いいたします。

副会長 平安 明

少子高齢化の進行が予想よりも早く、医療の在り方も構造的限界を迎えつつある今、医療界は非常に厳しい局面ですが、むしろこの状況から新しい医療提供スタイルを生み出すことができる好機でもあります。この2年間は非常に忙しかったですが充実していました。田名会長を盛り上げながら、風通しのよい田名執行部だからこそできることをしっかりと進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

常任理事 砂川 博司

理事になって10年近く経ちますが、田名執行部になってから非常に動きがスピーディで、何事も前に進んでいる実感があります。今後も沖縄県の長寿復活に向けて、65歳未満死亡率

改善プロジェクトや特定健診などを担当し、邁進してまいりたいと思います。

常任理事 玉城 研太郎

このたび、沖縄県医師会総務担当を2期目も拝命いたしました。身の引き締まる思いですが、肩だけは凝らないように頑張ります。只今、絶賛骨折中ですが、目の前の医療課題に真摯に向き合い、会員の皆様、行政、地域の皆様と力を合わせ、沖縄の明るい医療の未来を築いていきたいと思います。「楽しく、でも本気で!」を合言葉に、笑顔あふれる医師会づくりに全力で取り組んでまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

常任理事 涌波 淳子

これまで「医療・介護連携支援事業」と認知症を含めた高齢者医療を担当してまいりました。今年度からは、新しい地域医療構想のもと、外来・入院・在宅医療・介護の連携や人材確保を含めた「在宅医療を支える拠点」づくりが本格的に始まります。県担当者、各地区医師会、市町村の皆様と力を合わせ、地域に根ざした医療体制の構築に取り組んでまいります。田名会長のもと、2期目も全力で努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

理事 徳永 義光

母子保健と医事紛争・医療事故を担当してきました。今回、新理事に金城淑乃先生が就任され、母子保健の分野を分担出来てとても嬉しく思います。金城理事、また橋口幹夫参与と共に沖縄の健全な産科医療の持続的供給を図るべく尽力して参ります。また医事紛争処理は会員への重要なサービスです。近年医事紛争案件が増加傾向ですが、稲田副会長の御指導のもと、こちらも粉骨砕身頑張って参ります。どうぞよろしくお願いいたします。

理事 稲富 仁

対外広報と医療関係者問題を担当いたします。広報活動では、県民の皆様に医師会の取り組みをより広く知っていただけるよう努めるとともに、うりずんフェスタをはじめとする各種イベントを通じて、県民の健康意識の向上を図ってまいりたいと考えております。また医療関係者問題では、主に深刻化する看護師不足の解決に向け、看護協会の皆様と密接に連携を取りながら、粘り強く取り組んでまいり所存です。今後ともご指導のほど、よろしくお願いいたします。

理事 出口 宝

災害医療、国民保護、離島医療を担当いたします。南海トラフ巨大地震などの大規模災害や台湾有事の蓋然性が高まる中、昨年度、日本医師会は国民保護法における指定公共機関に指定され、JMAT 要綱も改正されました。本会においても、災害医療委員会や地区医師会、会員の皆様と力を合わせ、実効性のある体制づくりを進めてまいります。また、各種会議や訓練を通じて関係機関との連携構築にも努めてまいります。よろしくお願いいたします。

理事 當間 隆也

小児分野を担当します。学校保健、小児救急、小児在宅医療、小児科医不足など問題は山積しています。小児科医不足は深刻で、沖縄の小児医療の形が急速に変わってきています。県や教育委員会と定期的な意見交換の場を設けるなど、田名会長が率先して他分野との交流を始めていますので、期待に応えられるよう、子ども最善の利益を念頭に置き、小児科の意見をしっかりと伝えるよう頑張りたいと思います。

理事 仲村 尚司

救急、感染症等を担当しています。最近では夜間の小児オンライン診療の関係で日々、自治体の教育委員会巡りをしています。

まだまだ最年少理事ですので、粉骨砕身、突っ

走っていききたいと思うと同時に公私のバランスを保ちつつ持続的に医師会活動に取り組めたらと考えています。ご指導ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

理事 鈴木 幹男

このたび沖縄県医師会理事を拝命し、学術と地域医療を担当させていただきます。大学病院は経営面・社会的役割ともに大きな転換期を迎えています。医育機関として医師会との連携を一層深め、学生教育から生涯教育に至るまで、学術活動の推進と地域医療の発展に貢献し、県民が安心して医療を受けられる体制づくり、予防医学にも微力ながら尽力してまいります。

理事 天願 俊穂

昨年6月から医師会理事になり、2年目になります。主な担当は対内広報としての「医師会報」の編集、医療安全は徳永理事と一緒に医療機関からの依頼に基づく医療事故調査委員会の開催、そして医療機器の精度管理です。その他、福祉・経営、地域医療の副担当にもなっています。まだ、慣れないことも多いですが、他の理事、医師会事務局の方々の助けを借りながら、田名会長を盛り立てていききたいと思っています。

理事 富名腰 亮

昨年6月より県医師会理事に就任し、今期も引き続き務めさせていただくこととなりました。主におきなわ津梁ネットワーク、医療情報システム、会員福祉に関する業務を担当いたします。おきなわ津梁ネットワークについては、地域医療の現場でより有効に活用していただけるよう、さらなる改善と普及に取り組んでまいります。また、中部地区医師会理事も引き続き兼務いたしますので、中部地域との連携にも尽力してまいりたいと存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

理事 比嘉 国基

現在、医療界を取り巻く環境は、少子高齢化や社会保障改革など非常に大きな課題に直面しています。沖縄県医師会の役員はベテランから若手まで多様な年代で構成されておりますが、田名医師会長のもと、世代を超えて一丸となり、県民の皆様へ質の高い医療を持続的に提供できる体制づくりに全力で取り組んでまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

理事 金城 淑乃

琉球大学病院産婦人科に所属し、周産期医療に携わっております。沖縄県では、早産や低出生体重児の増加に加え、子どもの貧困やDVなど、社会的問題を抱える妊婦・家庭への支援が重要な課題となっています。若輩者ではございますが、臨床現場での経験を生かし、若い世代ならではの視点で課題を見つめ、医療・行政・福祉との連携を大切にしながら、沖縄県の医療の発展と県民の健康増進に貢献できるよう努めてまいります。

監事 湧上 聖

昨年4月より監事として働いてきました。1年間一緒に監事として働いてきた比嘉監事、豊見山監事が今回退任したので、少し寂しい気持ちになりました。しかし、新たにおもろまちメディカルセンターの上間一先生、浦添総合病院の伊志嶺朝成先生が監事に就任してくださり、心強く思っています。1年が過ぎてやっと慣れてきたところです。毎週の理事会に参加し、理事の先生方の仕事の凄さにいつも感心しています。これからはより意見を言えるようになっていきたいと思っています。

監事 上間 一

おもろまちメディカルセンターで訪問診療をしております。資料を見るだけで膨大なボリュームの仕事をされていると感じました。どれだけ仕事ができるか分かりませんが、ご指導いただきたいです。

監事 伊志嶺 朝成

今年度より沖縄県医師会の監事を拝命いたしました、社会医療法人仁愛会浦添総合病院の伊志嶺朝成です。これまで医療安全に携わる中で培った経験を少しでも生かし、微力ではございますが、

ますが、公正・中立な立場から会務・財務の適正な運営を支えてまいります。沖縄県の地域医療の発展と県民の皆様の健康を守る医師会活動に誠心誠意努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

参与一言あいさつ

参与 高山 義浩

前期に引き続き、参与を務めさせていただくこととなりました。地域包括ケアの推進、とりわけ医療と介護の連携を深めることで、急性期ケアの質を高めていくことに、引き続きお役に立てればと考えています。また、地域医療構想を取りまとめていく議論において、社会保障データの分析を通じた技術的支援にも取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。

参与 佐々木 秀章

沖縄県医師会参与として、引き続き務めさせていただくこととなりました。専門は災害救急です。災害時の地域の保健医療福祉体制・医療インフラの維持に努めるとともに、沖縄の課題となっている国民保護計画に基づく住民避難についても、特に要配慮者や保健医療福祉従事者を守る視点を大切にしながら、医師会活動に尽力してまいります。よろしくお願いいたします。

参与 大屋 祐輔

今期も、参与の任命をいただいた大屋です。一昨年度まで、琉球大学病院院長、沖縄県医師会常任理事をさせていただき、学術や医師確保関係の仕事をさせていただいていました。今回も、医師確保対策を中心に、県医師会活動を支援させていただく予定です。離島県沖縄にとって、医師の確保は医療体制維持のために最も重要な課題の一つです。沖縄県、琉球大学と連携をしながら、進めていきたいと思っております。

参与 橋口 幹夫

この度、医師会参与を拝命いたしました。私は40年間、沖縄県の周産期医療に携わり、現在は沖縄県産婦人科医会副会長ならびに沖縄県性暴力被害者ワンストップ支援センター医療統括を務めております。少子化や分娩施設の減少する中、「お産難民」が生じないように、安心して子どもを産み育てられる医療体制の維持・充実喫緊の課題です。これまでの経験を生かし、理事の先生と協力しながら、周産期医療のみならず、沖縄県の女性と子ども、ご家族のために微力を尽くしてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

参与 銘苅 桂子

沖縄県は県民所得が全国で最も低く、母子世帯出現率、生活保護率も高いことから、「こどもの貧困」として様々な対策が講じられてきました。琉球大学に設置されたおきなわこどもまんなかウェルビーイングセンターでは、医療と福祉と教育が連携して子供のウェルビーイングについて研究するプロジェクトが開始しています。研究にとどめることなく実践へとつなげていくためには、医師会の皆さまのご協力が不可欠と考えております。沖縄の子供のウェルビーイング実現に向け、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。